

みんなで結ぶ 地域の絆

安佐北区可部東地区の^{しんだて}新建団地では、昨年、30年以上途絶えていた新年行事の「とんど焼き」を復活させました。中心となって動いたのは、30代から50代の男性で結成した「新建青年部」。子どもから高齢者まで一緒に楽しめる行事を企画し、世代間の交流も進んでいます。

今年1月15日に開催したとんど焼きの様子



上達を願って書き初めを焼き納め



お餅のほかにも猪肉や焼ガキを楽しみました



熟年会からアツアツの豚汁がふるまわれました

「町内の人にも行事でないとなかなか会えないよね」

新 建団地で昨年30年ぶりに新年行事のとんど焼きを復活させた新建青年部。メンバーは30代から50代の、仕事や子育てに忙しい、いわゆる現役世代のお父さんたちです。

災害の記憶を 乗り越えるために

平成26年の8.20豪雨災害では、新建団地は犠牲者も出る大きな被害を受けました。その後、少しずつ復興に向けて整備が進んでいますが、今でも、夜に雨が降ると不安になる住民もいます。

「子どもたちにはふるさとの楽しい記憶を持ってほしい。若い人に地域の力になってもらえないか」と、熟年会(老人会)の藤原さんが一人一人に声を掛け、団地内の男性7人が集まりました。お互い初対面でしたが、藤原さんの提案をきっかけに、とんど焼きの復活に向け動き始めました。

地域みんなが楽しみに

青年部のメンバーの中にはとんど焼きのやぐらを組むのは初めて、生で見るのも初めてという人もいました。近隣の団体にやぐらの組み方を教えてもらいながらの作業です。熟年会の女性たちも豚汁作りで協力し、30年ぶりの昨年のとんどは子どもからお年寄りまで集まり、大盛況でした。

「盆踊りは夜暗くて顔が分からないし、町民体育祭はお年寄りの参加が少ない。

とんどは、いろんな人が顔見知りになれるのがいい」。手応えを感じた青年部のメンバーは、子ども会のお母さんたちと協力して、夏にはそうめん流しを開催。青竹で樋を作ったり、かき氷やヨーヨー釣りも用意しました。暑い中、みんな汗だくになりながらの準備でしたが、地域のたくさんの人が参加し、子どもたちから「楽しかった。また来年もやって」と楽しみにされるほど、盛り上がりました。

つながりが力に

行事で顔見知りになることで、地域全体の活動も連携が強まりました。青年部のメンバーには建築、電気、IT関係の仕事の人もいます。地域の中で人と人がつながることで、技術を生かし、地域のさまざまな活動に活躍の場が広がりました。子ども会行事に軽トラックで荷物を運搬したり、自治会ホームページの管理など、それぞれが得意なことを分担して助け合っています。

今年のとんど焼きも、役所への届け出や豚汁作りなど、熟年会や地域の人が快くバックアップする態勢が作られ、大雪



とんどの準備も終わってほっと息つく青年部の皆さん



熟年会の藤原さん(左)と青年部のメンバー倉敷さん

の中180人近くの住民が集まりました。

青年部の倉敷さん(上写真右)は「まずは自分たちが楽しむこと。無理して頑張っても続かないですよ。できることから始めることが大事です」と笑顔で話します。

地域の未来へ向かって

青年部のメンバーは、月1回は飲み会も兼ねて集まることにして、打ち合わせをしています。代表の宮本さんは「仕事のある日中はもちろん、夜でも夜勤や出張などで、メンバーが集まるのはなかなか容易ではありません。普段は、メールやSNSも使って連絡を取り合っています。でも直接顔を合わせて話をするのが一番です。みんなで力を合わせ、いつか実現したい夢もあるんですよ」と話します。

青年部設立を支援した熟年会の藤原さん(同左)は「若い感性が地域の新しい力になってくれています。今後、地域の防災活動やホームページの充実などにも活躍してほしいですね。私たち自治会役員も協力し、よりよい地域にしていきたいです」と語ります。